

若杉忠宏氏が黄綬褒章を受章

－「平成29年秋の褒章」－

11月14日、平成29年秋の褒章伝達式が厚生労働省で開催され、加藤勝信厚生労働大臣より当工業会会員企業である三菱重工業(株)の若杉忠宏（わかすぎ ただひろ）氏をはじめとした褒章受賞者に黄綬褒章が伝達された。その後、皇居にてご夫人同伴で天皇陛下に拝謁した。この素晴らしい栄誉をたたえとともに、ここにご紹介できることを嬉しく思う。

黄綬褒章は、「農業、商業、工業等の業務に精励し、他の模範となるような技術や事績を有する方」に授与される褒章であり、当工業会からは12人目の受章者である。

若杉氏は現在61歳で、昭和50年 三菱重工業(株)長崎造船所に入社し、昭和61年からは現

在の名古屋誘導推進システム製作所にて、長期にわたり航空宇宙エンジン分野の溶接業務に携わり、昨年、液体ロケット用エンジンの高品質・高精度部品への卓越した溶接技能に対して「平成28年度卓越した技能者“電気溶接工”部門」で厚生労働大臣表彰が授与された。そして、現在も範師の職にある。

若杉氏の功績等の詳細は、一年前の「航空と宇宙」（2016年12月号）に掲載しているのでご覧いただきたい。

今後ますますのご活躍、そして卓越した技能と豊富な経験が多くの後進に伝授され、日本の航空宇宙産業の発展に寄与することを期待する。



黄綬褒章と賞状を前にした若杉氏ご夫妻



若杉氏 液体ロケットエンジンノズルスカートの溶接作業

〔(一社)日本航空宇宙工業会 広報部長 高木 伸吾〕